CFOメッセージ

持続的な成長を支えるバランスのとれたリスクマネジメント

取締役 兼 代表執行役副社長 グループCFO
小島 一雄

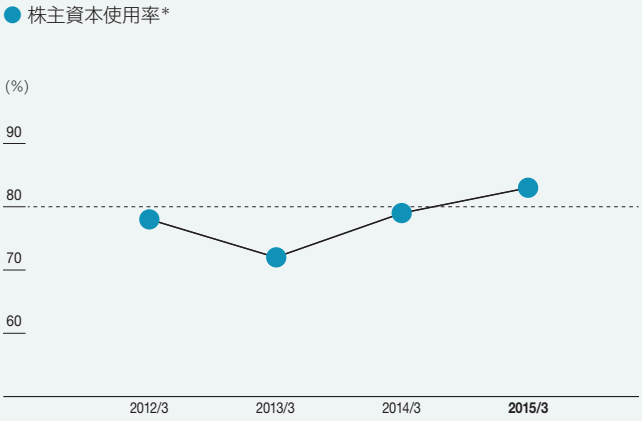
リスクを見極め、取るべきリスクを取る

オリックスは、お客さまの多様化するニーズや環境の変化に対応し、チャレンジとイノベーションを積み重ねることで事業を拡大、成長してきました。成長にはリスクを見極め、取るべきリスクを取りつつ、健全性を維持することが必要不可欠であり、これがオリックスのリスクマネジメントのベースとなっています。

オリックスの特長の一つとして、「リスクを丁寧に見る」ということがあります。案件の実行時には、少額案件からトップマネジメントを交えて個別に議論し、案件の良否を判断しています。実行後は、回収まで丁寧にモニタリングを行い、グループの知見を活用して、バリューアップや回収の最大化に努めています。また、毎月、トップマネジメントが6つのセグメントではなく、より小さなユニット（事業本部やグループ会社単位）でモニタリングを行い、各事業の責任者と議論することで、事業環境の変化にも迅速に対応することができています。

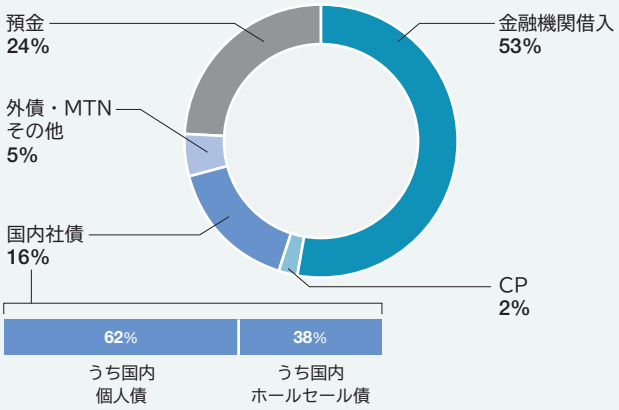
このように、現場からトップマネジメントまで一貫してリスクを丁寧に見ることで、リスクの見極めを行っていま

株主資本の使用状況 ［表①］



＊オリックス社内基準に基づく株主資本使用率（リスクキャピタル÷株主資本）。

資金調達の内訳（2015年3月末、ABS・CMBSを除く）［表②］



す。今後も新たなビジネスチャンスを積極的に発掘し、取るべきリスクを見極めて、成長に結び付けていきます。

健全性を確保し、企業価値を向上

健全性の観点では、資本の適切なコントロールと利益の安定性を重視します。中期的な方向性として、信用格付A格の維持を目標にしています。2015年3月期には、ハートフォード生命や弥生を買収しましたが、格付へのインパクトを評価した上で投資を実行しました。また、株主資本の使用については、おおむね8割程度が適正水準と考えています。[表①]

現在の良好な事業環境を捉えて、低収益・低成長資産の入れ替えを進め、成長性のある事業ポートフォリオを構築するとともに、資本の充足を考慮し健全性を維持します。セグメントや事業単位での資本の配賦および使用状況や、リスクに対するリターンの状況を評価してポートフォリオのコントロールを行い、企業価値の向上を図ります。

強固な財務基盤を維持

さらに、資金調達では、調達の多様化、調達期間の長期化および償還時期の分散、適切な手元流動性の確保等の施策を実施し、財務体質の強化を図っています。

現在、金融機関からの借入、各種市場における社債の発行、およびオリックス銀行の預金調達を主な手段として、多様な調達を行っています。調達先である金融機関数は200社を超えており、これらの金融機関と安定的にリレーションを保つことは、重要な施策の一つです。[表②]

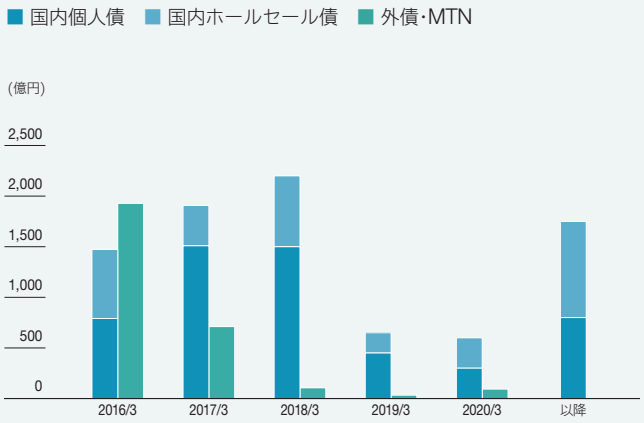
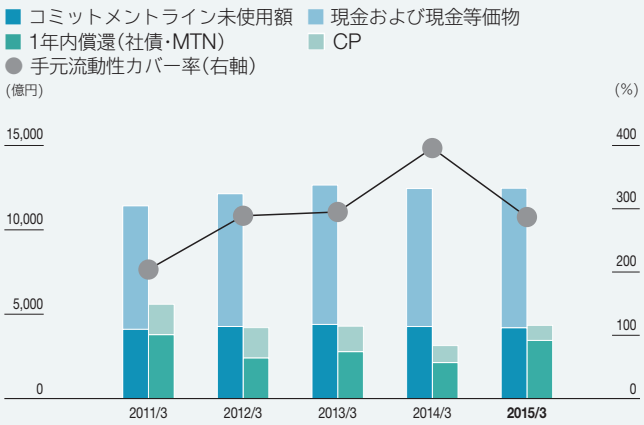
調達期間の長期化と償還時期の分散については、金融機関借入の長期化、国内における長期社債の発行により、リファイナンスリスクの低減を進めます。[表③]

また、調達環境が悪化した場合にも事業の継続に支障をきたすことがないように、流動性リスクのモニタリングを行い、適切な手元流動性を確保します。[表④]

さらに、グローバルな事業展開に合わせた調達の強化を図り、各国の現地銀行からの借入拡大や現地資本市場からの調達を継続して行います。環境エネルギー関連事業など、拡大を続ける投資事業では、プロジェクトファイナンスの活用を促進します。

今後も、取るべきリスクを取ること、そして健全性の維持という2点において、バランスのとれたリスクマネジメントを推進し、持続的な成長を目指します。

社債償還スケジュール(2015年3月末)[表③]



市場性短期債務に対する手元流動性 [表④]